

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	東京都府中市片町 3-3-28
園名	アスク府中片町保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

動作

<テーマの設定理由>

子どもたちは日々様々な動きに興味を持ち、体を動かすことを楽しむ様子が見られます。しかしながら、器具を用いた動きの習得は中々難しい様子が見られたため、体操講師の助言を得ながら保育士も子どもと一緒に活動を行い、子どもが体を動かす事、器具の使い方や体の動かし方を知り、楽しむ活動になるのではないかと考えました。

2. 活動スケジュール

6月から1月まで行い、動きについて講師から保育者も助言を得て、保育者自身が専門的な知識を知り、子どもが実際に動きを体験できる機会を増やす事や、保育の中でさらに興味関心が広がるような動きを考えたり、実際に動くことで体を知る事が出来るようにした。

6～10月：基本的な人間の動作を考える、知る。鉄棒を使って出来る遊びやその動作を考え実践するを繰り返す

9～10月：様々な大きさのボールを使った、体の動きを考え実践するを繰り返す

11月～12月：大縄を使った遊びの中で、体の動きを考え実践するを繰り返す

1月：子どもがリクエストした器具や遊びを使って振り返り

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

伸び伸びと体を動かすことができるように机や椅子を片付け広々とした空間を作るようにした。また、グループ毎や一人ずつ順で行なうことが出来るようコーナーに分け、実践以外の児は他の運動を楽しむことができるようにしたり、テープ等で順が待てるようにした。

- ・鉄棒（マット） — 鉄棒を使って出来る遊びやを考える為に使用
- ・ロープや養生テープ — 安全の為順を待つ時等に使用
- ・3サイズのボール — ボールを使った遊びを考える、また、その遊びの中にどのような動きがあるかを考える為に使用
- ・大縄、短縄 — 縄を使った遊びを考える、また、その遊びの中にどのような動きがあるかを考える為に使用
 - ・跳び箱 — 跳び箱を跳ぶためにどのような動きがあり、どのような練習が必要かを考える為に使用（5歳児のみ）

4. 探究活動の実践

【3歳児実施分】

問いを考える：

はじめに、「遊びや生活を通し日々過ごす中での自分たちの動きを考えてみよう」とし、実際に動いてみる中で様々な動きを見つけ、そして「その動きの名前は何か」を問いかけた。その後は鉄棒やボール縄を使って「どんな遊びができるかな」と問い、実践していく中で「その遊びを行う中でどんな動きがあるか、必要か」や「目標を達成する為に体のどこをどのように動かすと良いか」を問いかけながら行った。

探究活動の様子：

はじめの問い掛けには何人かが答える姿や、動きをよく見て真似ながら様々な動作を繰り返すことを楽しんでいる様子だった。

鉄棒を使った内容の際は、問いかけに対し考えているがイメージが難しくあまり発言がなかったが講師の助言やジェスチャーをもとに思いつき、皆に発表する姿が見られた。また、「ぶら下がる」の動作を行う中でどうしたら上手くできるかを実際に自分で行なってみたり友だちの姿を見てから考えてみる中では、実際に出来ていた児を見本として行っていたためイメージしやすく全体的に発言していた。次の場面で「鉄棒を使った遊び」を考えるときには一部だったが自身でイメージしたものを自由に発言する姿があった。中にはイメ

ージが難しくなかなか発言できない児もいたが友だちの案を聞いてヒントにし、次第に声がたくさん集まっていた。

大中小 3 種類のボールを使った内容の際には、中くらいのボールから始め実際にキャッチに挑戦する中で出来た児にどうしたら良いかを聞くことで自身で考える姿があった。また、その児が見本となり皆の前で実践して見せることで周りの児も分かりやすく真似することもできていた。中サイズを基準とし、その後小、大も同じようにキャッチに挑戦すると、大きさによって構える腕の開き方の違いに気付く児がいた。玉入れのようにボール投げをした時には、的目がけて投げる場面では講師からの問いに答えながら強さや場所、投げ方を自身で工夫しながら投げている児の姿が見られた。

縄を使った内容の際には、片方固定した大縄を揺らして跳び、「うまく跳ぶには体をどのように動かしたらよいか」という問いに「上に高く跳ぶ」「動かないで跳ぶ」という答えがあり、途中からテープで目印をつけることでその二つを意識しながら行う姿が見られた。「縄を使ってどう遊べるか」「その遊びの中にはどんな動きがあるか」という保育者からの問いに何人かが積極的に応える姿があり、実際に見本として皆の前に出て行く児もいた。一人ずつ行なう縄跳びでは保育者の問いに対し「縄を前に出す」「跨いでジャンプする」という発言が見られ、ゆっくり取り組みを行うことで徐々に跳べるようになっていた。また、分からない時には「友達に聞いてみよう」という言葉も聞こえるようになった。

ふりかえり(保育士の気付き)：

すくわくの取り組みを始める中で、3歳児の発達的なのか、クラスの子の発達なのか、保育者や講師からの問いに対し、何も無い状態で自身でイメージして答えることは難しい、またはそれを言葉で伝えることが難しい様子も見られたが、実際に物を使って実践する中でイメージが出来たり探究につながる姿が見られた。探究するためにもイメージが出来ることや様々な考え方が必要になることが分かり、その為には実際にその物があることやたくさんの経験が大事なのだ気付いた。そして探究しながら実践したり試してみることが出来る環境づくりをしていきたいと感じた。

【4歳児実施分】

問いを考える：

はじめに、「遊びや生活を通し日々過ごす中での自分たちの動きを考えてみよう」とし、実際に動いてみる中で様々な動きを見つけ、そして「その動きの名前は何か」を問いかけ

た。その後は鉄棒やボール縄を使って「どんな遊びができるかな」と問い、実践していく中で「その遊びを行う中でどんな動きがあるか、必要か」や「目標を達成する為に体のどこをどのように動かすと良いか」を問いかけながら行った。

探究活動の様子：

講師や保育者が行う動作の真似をしながら「この動きは何というでしょう？」という問いに積極的に発言をしたり、動作を真似しながら「これも〇〇の動きと一緒に？」と疑問に思ったことを講師に見せながら確認する姿も見られた。

鉄棒を使った内容の際には、実際に子どもたちができる「まえまわり」「さかあがり」「つばめ」の中から「ツバメ」をピックアップし、「ツバメが上手に出来るようにするにはどうしたらいいかな？」という問いには実際に一人ずつツバメを行いながら、どこに力が入っているかなどを考えた。足をぴんと伸ばすためには足首や腰、お腹、背中など色々なところに力が入っていないとできないことが改めて分かってきている様子があった。また体を支える為には腕や手首、肘などの握ったり延ばしたりする力も必要なことに気付いていた様子も見られた。「ぶたのまるやき」を行う時にはまずは一人ずつイメージで実際に行っていき、最後に全員で考えながら確認すると、「顔は横を向くとやりやすい」「あしはどこをかければいいかな？」などの意見が出た。いくつか話した後でもう一度行ってみると、それぞれ足の位置を意識しながら行う姿が見られた。

ボールを使った内容の際にはいくつか出た意見の中から「大きいボールでボール送り」を取り上げて行いどうしたら早く渡していけるかを問いかけ探究しながら行った。一度行ってから改善点を考えられるようにしたり、上手な子にスポットを当て具体的に分かりやすく説明したり、失敗した理由は何だったのか問いかけながら行った。考えたことを意識しながら実践することで徐々に出来ていくことが子どもたち自身にもわかっている様子が見られた。

縄を使った内容の際には、「どうしたら大縄を上手に跳べるようになるか？」と言うことでまずはマーカーを使って「ジャンプ」に視点を置き考えてみると、上手にできている児はどう動いているのか問いかけながら子供たちの意見を聞き実践するようにした。その後縄を使って実際に跳んでみてどうすると上手に跳べるのかを一緒に考えるようにした。

「上にジャンプした方がいい」という意見をもとに、分かりやすくするためテープを貼ってそこから動かないで真上にジャンプするようにした。

ふりかえり(保育士の気付き)：

今までのすくわくの中で、子どもたちも一緒に考えて意見を出し、それを実践してみると上手になるコツが分かったり、上達した実感を感じられることで満足感を得られたと思う。受け身で行うよりも自分で考え、意見を言い、行動することが子どもたちにとって思った以上に意欲や充実感が引き出されたのではないかと思う。今後も子どもたち主体で一緒に考えて行動するようにした。

【5歳児実施分】

問いを考える：

はじめに、「遊びや生活を通し日々過ごす中での自分たちの動きを考えてみよう」とし、実際に動いてみる中で様々な動きを見つけ、そして「その動きの名前は何か」を問いかけた。その後は鉄棒やボール縄を使って「どんな遊びができるかな」と問い、実践していく中で「その遊びを行う中でどんな動きがあるか、必要か」や「目標を達成する為に体のどこをどのように動かすと良いか」を問いかけながら行った。

探究活動の様子：

実際に体を動かし考えながら自分たちが知っている動作や講師や保育者の行う動作の名前を出し合った。

跳び箱を使った内容の際には「跳ぶときにどんな動作をしているか」について、実際に保育者の動作を見て「走る」「たたく」「支える」「跳ぶ」等のたくさんの動作があることに気付く。その上で「跳び箱に必要な動作の練習」と課題を出し、小グループに分かれ考えるようにした結果、皆で「顔を前に出す、走って跳ぶ、足をグーパーに開く」と目標を決め、意識しながら実践してみる姿が見られた。

鉄棒を使った内容の際には、「鉄棒を使った遊び」という課題を出して考え、意見を出し合い、その中で前回りの動作について視点を置き考えたものを個別に発表した。「跳ぶ、腕で支える、頭を下に下げる、回る、腕を曲げる、足を下す」と一つ一つの動作を確認し一人ひとり意識しながら前回りに挑戦する姿が見られた。他にも「逆上がり」「ぶら下がってじゃんけん」「腕の筋トレ」など様々な遊び方の意見が出たので、一人ずつ気になる遊びを実践する時間を作り行ってみた。

ボールを使った内容の際には、「できる遊びはなんだろう？」という問いに「投げる」「拾う」「蹴る」と意見が出た。その中から「拾う」に視点を置き実践する中で、「よく

ボールを見てないとダメ」「ボールの前に行く」「膝をつかないで立ったまま拾うといい」という意見があがった。「投げる」に視点を置き、的当てゲームを行う中では「構えの姿勢」を皆で考え意見を出し合いながら上手く投げるコツを探究していた。また、子どもたちからでたボールを使った遊びの中から「ドリブル(手で)」を行った。講師や保育者からの「どんなやり方だったらうまくいく?」という問いに「少しかがむとやりやすい」「思いきり打ち付けるといい」という意見が出た。また、「ボールが小さいからやりにくいのかも」という意見が出てバランスボールでドリブルをするようにした結果、手に当たるボールの面が大きいことに気付き、「大きい方がやりやすい」と気付いていた。

縄を使った活動の際には、マーカーや縄のサイドをジャンプする中で「どのようにしたら上手く跳べるか」という問いかけには子どもたち自ら考え「リズムよく跳ぶ」「足を合わせる」「縄を見る」などの発言が出来ていたのでそれを意識して行ってみるようにした。また、「とーん、とーん」とみんなで声を合わせながら跳ぶことで一体感が生まれ、苦手意識のある子には「できてるよ」と自信のつくような声掛けや「もっとジャンプを大きくしてごらん」と具体的にアドバイスをする姿も見られた。

ふりかえり(保育士の気付き)：

子どもたちは体を動かすことについて、自分の体の動きに関心を向けながら取り組んでいた。「跳び箱を上手く跳ぶためには」「大縄を全員で跳ぶには」など活動内容について、少人数のグループごとにそれぞれが考え、実際に試す姿が見られた。繰り返し挑戦する中で手をつく位置や膝の曲げ伸ばし、跳ぶタイミングなど部位ごとの動きを工夫しようとする姿があった。

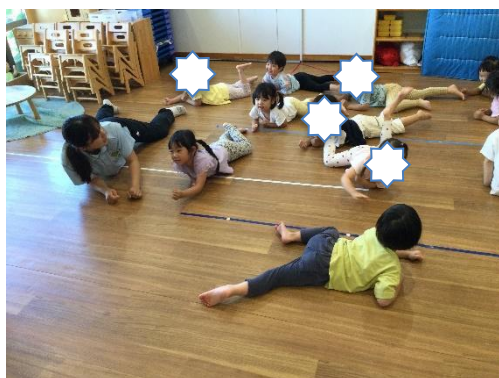
また、活動で考えた動きを外遊びの中でも取り入れて試す姿があり、遊びの中で主体的に体の使い方を確かめる姿に繋がっていた。さらに、考えたことを個人やグループで発表し合うという力も身に付いた。

5. 活動の様子が分かる写真

3 歳児

活動の様子が分かる写真 2枚以上を貼付してください。

(HPなどで公開する可能性がありますので、公開可能なものを使用ください。)



4 歳児

活動の様子が分かる写真 2 枚以上を貼付してください。
(HP などでも公開する可能性がありますので、公開可能なものを使用ください。)



5 歳児

活動の様子が分かる写真 2 枚以上を貼付してください。
(HP などでも公開する可能性がありますので、公開可能なものを使用ください。)



とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	東京都府中市片町 3-3-28
園名	アスク府中片町保育園

1. 活動のテーマ

自然

<テーマ>

<テーマの設定理由>

それぞれの自然に興味を持つ子どもが増えている中で、年齢によって考える自然は異なると考えられる。まずは各年齢のクラス同士、そこから異年齢で関わりを持ちながら自然について考えたり取り組んだりできればよいと考えた。

虫や植物への興味が出てきている中で、英語を絡めて学べたらより楽しくなると考えた。

図鑑や標本を用いて子ども自身が興味関心のあるものを調べたり、英語講師と連携を図りながら保育者自身が子ども達と一緒に自然について楽しみながら学ぶことが出来る取り組みを提案できるようにした。

2. 活動スケジュール

6月から1月まで行い、テーマに合わせた内容を、保育士が子ども目線に立ち、発想が広がっていけるように、子ども達自身にも見聞きしながら発想力が養っていけるような環境を作り、保育の活動の中で保育者と、そこから子ども達同士が振り返り、さらに探究心が深まるように提案をしたり、子ども自身が考えていけるようにし、図鑑で調べてみたり、実物を観察することができるような機会を作るようにした。

6月～10月 自然について

11月～1月 世界について

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

図鑑(自然そのもの)や絵本を読んで、生物含めた自然を探したり、観察したりして「自然」の種類を沢山見つけ、発見できるように日常的に子ども達の手に取りやすい場所に図鑑・絵本を用意する。

虫や植物の名称を英語で言う。

- ・参考の写真やタブレットで画像を用意する
- ・深く学んだり触れられるように塗り絵やワークシート、それに伴い色鉛筆やクレヨン

4. 探究活動の実践

【3歳児実施分】

問いを考える：

前半は「山、川、洞窟、海などの自然」「植物の生長」「虫の成長」「植物の部位の名所や役割」「自然を守るためにできること」など「自然」をテーマに取り上げ、それぞれのイメージや知っていることを問いかけたり、新たに聞いたことへのイメージを問いかけながら探究が深まるようにしていった。後半は「世界について」をテーマに、「インド」「イタリア」「フィリピン」の3か国のイメージや知っていることなどを問いかけながら進めていった。

探究活動の様子：

「山、川、洞窟、海などの自然」の写真を見せながら問いかけた際には、外国の写真であった為か馴染みなく子どもたちは理解できていない様子であった。保育者の助言などにより気づき始めた子どもたちが次第に発言し、写真に写っている物に対し指差しながら「それはなに？」と講師に尋ねる姿が見られた。その後保育の中で「自分のイメージする山」の塗り絵を行ってみると、「山は富士山だよ」「じゃあ青だね！」という声や、「カラフルの山もいいよね」と自由にイメージを膨らませて色を塗る姿が見られた。

「虫(蝶)の成長(ライフサイクル)」の写真を見ながら問いかけた際には、直前に幼虫を見つけてクラスで飼い、羽化するところまで見ていたので皆よく理解したうえで自信を持って答える姿が見られた。その後保育で蝶の塗り絵を行った際には「この間蝶になったや

つにしよう」と直前に経験したものを想像して描いてみたり、中には「先生、絵本みたい！」と言って他の蝶の種類や名前、模様に興味を持ち自ら図鑑を見て好きな蝶を見つけ描く姿も見られた。

3か国を取り上げ世界の国について取り上げた際には、食べ物や有名なスポーツ、代表的な花などイメージや知っていることを問いかけた際には自分の知っている範囲の中で積極的に応える姿が見られた。また、それぞれの国のダンスの動画や挨拶のポーズなどを教えてもらった際にはとても興味を持ち、自然と自身の身体を動かしながら真似て踊ったりポーズをとる姿が見られた。そして、その後の保育の中でも「〇〇（国）の挨拶こうでしょー？」と保育者にやって見せたり、「他の国も踊りあるのかなー？」などと疑問に思う姿が見られ、図鑑などで調べようとする姿が見られた。（園にはそのような情報の図鑑はなかったなので、今後見つけて探究する予定）

ふりかえり(保育士の気付き)：

定期的に行なっている英語から導入してみたものの、最初は問いかけに子どもたちも不思議そうにしている姿も見られたが、次第に子どもたちも慣れてきて、保育者の問いかけに自分なりのイメージで発言する声が増えていた。色々なテーマの中で様々な事柄に触れ、更に英語でのすくわくということで興味関心、そして集中している様子も多く見られた。英語でのすくわくは難しい部分や課題も多く見つかったが、子どもの気付きを深める取り組みについて講師や保育士の連携を行ないながら保育の中で取り入れることで興味、関心、探究が深まり、子どもたちの様子により継続して取り組むことが子どもたちの力に繋がることも分かった。そして、自分の知っていることや身近な事からも興味を示しやすいこともあるので、様々な経験が出来る機会が大切だと感じた。

【4 歳児実施分】

問いを考える：

前半は「山、川、洞窟、海などの自然」「植物の生長」「虫の成長」「植物の部位の名所や役割」「自然を守るためにできること」など「自然」をテーマに取り上げ、それぞれのイメージや知っていることを問いかけたり、新たに聞いたことへのイメージを問いかけながら探究が深まるようにしていった。後半は「世界について」をテーマに、「インド」「イタリア」「フィリピン」の3か国のイメージや知っていることなどを問いかけながら進めていった。

探究活動の様子：

「山、川、洞窟、海などの自然」の写真を見せながら写真が何か、そこにはどんな生き物がいるかを問いかけた際には、はじめはイメージが難しい様子だったが保育者が助言をすることで今までの経験から少し意見が出てきた。その後保育の中で「自分のイメージする山」の塗り絵を行ってみると、山だけでなく森や植物、花や虫、動物なども自身で考え自由に描く姿が見られた。

虫の成長についての内容の際は、今までの経験から積極的に知っていることを発言する姿が見られた。蝶の模様を描く際には、綺麗な色を使うことよりも本物の模様を描きたい児が多く、自ら図鑑で調べて真似て描く姿も見られた。

「自然を守るためにできること」について、その中でもごみの分別について取り上げた際にはクイズ形式で子どもたち一人ひとりが考える機会が持てるよう取り入れると積極的に参加し、個々に考えてみる姿が見られた。また、そのゴミがリサイクルした後は何に変身するかにも興味を持ち、集中して聞く姿が見られた。その後保育の中で「身近で出来る自然を守ること」について話し合った際には、「ゴミを拾う」「テレビをつけっぱなしにしない」「お花を大事にする」などと子どもたちなりに考えた意見が出ていた。

3か国を取り上げ世界の国について取り上げた際には、外国の国旗やお金、衣装などに興味を持ったり、ポーズやダンスを知って楽しむ姿が見られた。特に料理に関しては興味津々な様子で「食べてみたい」という声も聞こえた。

ふりかえり(保育士の気付き)：

外国の自然や経験がないものから4歳児にイメージすることが難しい内容もあったが、普段から触れる機会が多いことには気づきや発見が早く感じた。虫の成長について行った際には、蝶の塗り絵で実際にいる蝶の模様を探求する姿が見られ、観察する力が養われていると感じた。理解を深めたりすることは難しい部分もあり、日々の保育の中で振り返りを行い再度考える場を設けることで子ども達が子ども同士で、考える姿勢が身につく、探究が深まるようになってきていると感じた。

【5 歳児実施分】

問いを考える：

前半は「山、川、洞窟、海などの自然」「植物の生長」「虫の成長」「植物の部位の名所や役割」「自然を守るためにできること」など「自然」をテーマに取り上げ、それぞれのイメージや知っていることを問いかけたり、新たに聞いたことへのイメージを問いかけながら探究が深まるようにしていった。後半は「世界について」をテーマに、「インド」「イタリア」「フィリピン」の3か国のイメージや知っていることなどを問いかけながら進めていった。

探究活動の様子：

「山、川、洞窟、海などの自然」の写真を見せながら問いかけた際には、写真からその場の風景を読み取り、その場に合った自然物「木、水、石、虫、動物、暑さ」等を考え発言する児が多かった。その後の保育で山の塗り絵を行った際には、様々な色を使いながら山を塗ったり、「太陽、雲、動物」など自由に発想したものを描いたりしていた。

植物の生長についての内容の際は、図から過程を読み取りその時期に起こる変化「種、芽、葉、茎、花びら」や環境要因「水やり、太陽」を考え発言する児がいた。その後保育の中で実際にクラスで育てている「ナス」を観察し、花の様子を観察する中で、「花粉」に焦点を当て「花粉や密には蝶や蜂の存在が必要」と考えが深まっていく様子も見られた。

植物部位の役割についての内容の際は、植物の部位について一つずつ役割を考え「根→水を吸う」「茎→水を葉に送る」「葉→太陽の光を浴びる」「花びら→花粉を作る」という答えがあった。自分たちが育てているナスの過程についても考えが広まり、「だから水やりが大事だね」「ナスの黄色い花のところに蜂が来てたよ」などと自分の思ったことや経験したことを周りに共有しようとし、それに賛同した児が図鑑で調べて探究する姿が見られた。それに伴い、保育の日常の中でも自然に関わる本に興味を持って読む児が増えていた。

3か国を取り上げ世界の国について取り上げた際には、それぞれの国の文化やお金、料理などをクイズのように問いかけられるとそれぞれ自分なりに考え、身近なものや知っているものなどを積極的に答える姿が見られた。また、写真や動画を見て「それ知ってる!」「それ食べたことある」など馴染みを感じている様子も見られた。また、それぞれの国旗を問いかけられた際には、普段から地球儀や世界地図を見ているのでなんとなくわかっており、さらに探究が高まる姿も見られた。そして保育の中で自発的に地球儀を見て日本と知った国の大きさ等を比べている姿も見られた。

ふりかえり(保育士の気付き)：

英語はレッスン等で普段から触れており興味のある事ではありながらも実際に、英単語を覚えながら理解すること自体は少し難しい様子があったが、子どもたち自身が少しずつ興味をもって取り組んでいき、自分たちで調べてみようという行動が出てくるようになった。植物の成長について、種から芽がでてやがてみをつけるまでの流れの理解を深めることもできた。すくわくを通してめしべやおしべを学び、クラスで栽培していたナスを例に挙げながら話す姿は、イメージしながら考えている様子が見られて特に印象的であった。

また、以前よりも自然の観察をじっくり行い細かい部分に気付く姿がみられ、観察力が育った。塗り絵の活動でも形・色を意識しながら取り組む姿が見られ、表現の面でも成長が感じられた。

5. 活動の様子が分かる写真

3 歳児

活動の様子が分かる写真 2枚以上を貼付してください。

(HPなどで公開する可能性がありますので、公開可能なものを使用ください。)



4 歳児

活動の様子が分かる写真 2 枚以上を貼付してください。

(HP などでも公開する可能性がありますので、公開可能なものを使用ください。)



5 歳児

活動の様子が分かる写真 2枚以上を貼付してください。

(HPなどで公開する可能性がありますので、公開可能なものを使用ください。)

